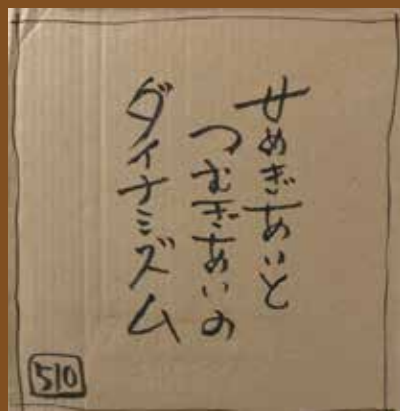


後藤ゼミナールについて

ゼミのテーマは“Doing Visual, Cultural & Urban Sociology! 「映像(写真とビデオ)で語る:「東京」と「東京人」の社会学””。都市社会学と映像社会学がドッキングした活動的でクリエイティブなゼミです。独自に開発した「集合的写真観察法」を含む映像フィールドワークを基にして、私たちが生きている社会を可視化・可知化すること、これがゼミの柱です。

ゼミのスローガンに「せめぎあいとつむぎあいのダイナミズム」を掲げ、ゼミ生同士が積極的に考えや思いを言葉にして議論することで、第三者に向けた「秀でた表現力」を磨きます。



2025年度後藤ゼミナールメンバー

4年

○大室里仁/コピトフ・イリヤ/◎篠原拓実/豊嶋弦/
平林シャミス哲/増田響/渡邊晴輝
(◎:ゼミ長、○:副ゼミ長)

3年

猪狩明日香/小田智美/木須康陽/小林卓真/
佐藤由経/田中陸斗/中尾礼萌/平井胤充/廣瀬亜実

教授:後藤範章

第14回シモタカ・ジョースイ映像祭

日時:2026年1月14日(水)
18:00~19:30

会場:文理学部図書館3F「オーバルホール」

概要

文理学部のある「下高井戸」と「桜上水」に眠っている宝物(地域資源としてのヒト・コト・モノ)を発掘し、新たな意味や価値を創出することを目指して15年前に立ち上げた地元・世田谷の再発見/新発見プロジェクトによる成果を発表いたします。今年度上映するのは、3年生が制作したドキュメンタリー作品2作品(下掲)です。

プログラム

下高井戸・桜上水物語の上映

(仮題)「68年の歴史に幕を閉じた下高井戸市場」
「地域と祭りという舞台」

WEB
<https://n510.com>



BLOG
https://note.com/goto_20251018



第32回 “写真で語る : 東京の社会学” 展

東京の内部に潜む力能(ポテンシャル)
—気づきと仲立ちの社会装置—



2025年 12/2(火)~12/6(土)
毎日10:30~18:30 入場料無料

日本大学文理学部図書館1F
ブラウジングコーナー

アンケートに答えてくださった方に
心ばかりの謝品を用意しています

第32回「東京」展について

東京に潜む力能(ポテンシャル)とは、何でしょう？

東京は、日本の政治・経済・社会・文化の中心地です。世界的に見ても大規模な都市であり、様々な背景を背負う実に多種多様な人々が集い、生活をしています。そんな東京だからこそ生まれるポテンシャルは何かと問われ、あなたは一体どのようなものを想像しますか？

「無限大の可能性」を思い浮かべる人がいるかも知れません。自分のなりたいものになれるチャンスがどこまでも広がっている東京だからこそ、夢を追う人や東京に出れば何か変わるのではないかと期待する人、とりあえず東京に出てみようとする人など、東京は多くの人に可能性を提供しています。

あるいは、「孤独と自由」でしょうか。当人が孤独を感じた時、それを噛み締めたり紛らわせたり楽しんだりすることも、全て各人の自由(好き勝手)な判断や選択に委ねられます。孤独との向き合いや自由というポテンシャルは、東京でこそ最大限に発揮されるのではないのでしょうか。

何か特別なものでなくても、普段の生活の中に東京だからこそ成り立っているものは他にも多く存在し、それらが東京人に何を気づかせ、その人にどのようなきっかけを与えるのか。皆さんと一緒に考えることができればと思います。

私たちは、写真を通して東京が秘める力能を見出し、テーマである「気づきと仲立ちの社会装置」としての機能を探ります。

本展が、東京という巨大都市を新たな視点から見ることのきっかけとなれば幸いです。

第32回 “写真で語る：「東京」の社会学” 展 東京の内部に潜む力能(ポテンシャル) —気づきと仲立ちの社会装置—

【作品名と展示の対応関係】
上段：メイン(大)
下段：サブ(小)

1

1997-No. 2 ひとり上手
—「東京人」への変化(へんげ)—

1998-No. 14 Tokyo LIFE
—ある若者の「自分探し」—

6

2007-No. 9 絵馬の縦列がけ!
—梅の咲く頃までが見頃です—

2007-No. 10 野次馬を魅せる技
—江戸の火消し文化—

2

2001-No. 21 新橋へのSympathy
—ゲイの文化とゲイバーの分化—

1999-No. 19 マイ・ライフ、マイ・ワールド
—あるクラブDJの日常—

7

2007-No. 7 東京の中の「ふるさと」
—新潟県人会が顕れるとき—

2001-No. 14 みんなのFC(Future Community)東京
—地域社会への連帯感と帰属意識—

3

2012-No. 13 フリーペーパーの世界
—小さな輝きを共有できるメディア—

2011-No. 16 舞台としての紀伊國屋
—「ぴあ」の終焉と再生—

8

1996-No. 19 円都(イェンタウン)
—東京の中の異国—

2001-No. 25 International Market
—欧米系外国人コミュニティの形成—

4

2013-No. 8 新宿の屋外ダンスステージ
—競演・披露の場を求めて—

2016-No. 12 目立つことが生きがいです
—コスプレモン스터たちの縄張り争い—

9

2015-No. 3 “パオ”のもつ不思議な力
—気づきの社会装置—

2015-No. 8 開かれた扉
—ムスリムと非ムスリムを結びつけるモスク(ジャーミー)—

5

2013-No. 9 アメ横のあまちゃん
—テレビ小説と現実とのギャップ—

1995-No. 9 リアリティとは何か?
—マス・メディアの環境造力—

10

2009-No. 32 より良い明日へ
—パブリックアートが街に与える影響—

2017-No. 3 3.11は終わっていない
—渋谷のストリートアートの政治的メッセージ—